

学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
(1) 私たち生きる社会 現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。 (2) 現代社会と人間としての在り方生き方 現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。 ア 青年期と自己の形成 生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。	○地球環境問題、資源・エネルギー問題等の人類の課題や生命倫理、高度情報化社会の問題点など現状では定まった解答が得られない問題を幸福、正義、公正を基準にして生徒に考えさせる。 ○個々人の生涯において青年期とはいかなる位置を占めるのであろうか、青年期の心理的特徴やその社会的背景などを視野に入れながら青年が来るべき将来において、自立するための課題を考える。

学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
イ 現代の民主政治と政治参加の意義 基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における個人と国家について考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。 ウ 個人の尊重と法の支配 個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。	○民主主義や人権の一般原理を生徒に理解させた後、その土台の上に成り立つ日本国憲法の本質を理解させる。それに則って、国民がどのように政治参加を行っていくのか、その意義は何かの理解と自覚を深める。 ○日本国憲法条文の半分近くを占める基本的人権について、その意味を過去の憲法判例を事例として、右の意義を理解させ、自覚を深める。

学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
エ 現代の経済社会と経済活動の在り方 現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。	○経済の基本原理を身につけることをまず、主眼に置きながら、ここ 20 年間に急速に進んだグローバル経済の状況において、国際経済や国際金融の仕組みを理解させる。またこうした状況から様々な課題が労働、福祉、環境や日本の国内経済にもたらしていることを有機的に関連付けられる学力を目指し、グローバル人材育成の一助とする。

学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割 グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域的経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差について理解させ、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。	○グローバル化が進展する国際社会に逆行するように、ナショナリズムも拡大し、国家間の緊張が高まっている。また地球的規模の格差の広がりやそのために巻き起こされる貧困の問題などを体系的に捉えさせ、来るべきグローバル社会に有意な人材を育成する一助とする。

	学習指導要領	都立国分寺高校 学カスタンダード
(3) 共 に 生 き る 社 会 を 目 指 し て	持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。	○持続可能な社会の形成に主体的に参画するための知識を身につけさせ、それを土台とした課題の発見と社会計画の提案、それに基づいた行動力を形成するための学力を目指す。